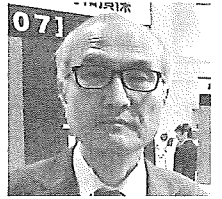


中小企業診断士・山田谷勝善(経営創研)

「KANAGAWA EXPO2015」訪問記



2015年(平成27年)12月30日(水曜日)

自らの変革を
考えさせる内容

九日、縁あって第十回、自らの変革を考え興産が中心になって運営する「第一回自動車事業者KANAGAWA EXPO2015」(ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル)に参加しました。

自動車事業者との付き合いはほとんどなく、非常に興味深く参加することができました。

講演した講師の皆さまそれぞれ問題意識を持たれ、大胆な発言をされておりました。参加者も多数、懇親会に参加され、大変盛況でした。



約400名集まった会場

【ジーエフシーサービスの鈴木飛雄馬社長の発言に対するコメント】

現在取り組まれている新規事業は、「商品としくみがあること」「ドメインの一致」など新規事業を考えている事業者にとっては、参考となるキーワードではないでしょうか。

【ANAビジネスソリューションの林靖子副部長の発言に対するコメント】

経営にとっていかに「あいさつ」「接遇」が、根本的な課題であるかということ、経験を交えながら、説得力ある内容でした。会場内、投射されたプレゼン資料を写真におさめるシャッター音がなり続けました。

【全日本ロータス同友会・室谷眞一常任相談役、アップルグループ本部野口勝久会長、ホリデー・松川陽一ホリデー車検FC事業本部部長、ブロードリーフ・大山堅司社長の四氏による「新時代自動車整備について」のパネルディスカッションに対するコメント】

自動車関連事業の中で、一番利益の高い分野である自動車整備業に焦点をあわせたパネルディスカッションでした。整備業も、ご多分にまわらず、厳しい状況にあること、それを克服すべきパラダイムシフトに挑戦されていることがわかりました。

それらも意識しない時代になりつつあるのかと思います。

また、新規事業への進出のさまざまな事例や視点が紹介され、大変参考になるものでした。

室谷眞一常任相談役は、この業界を背負ってこられただけに、すべてを見通しており、将来の抜本的な改革の指針まで、しっかりと説明されておりました。

野口勝久会長は、先頭になって総合サービス業への転換を指揮されており、迫力のある

内容でした。松川陽一本部長は、全国の多数のパートナーさまへの責任感に基づいてチャレンジをされており、非常に熱心に、勉強されており、今後の発展が期待されます。

業界は、それ特有の雰囲気があるもので、EXPOに参加されている自動車事業者の方々は、生き馬の目を抜くような感じではなく、接客、技術に裏打ちされた堅実なタイプで、非常に信用のおける雰囲気でした。

残念なこととしては、皆さま知人との会話に終始しており、懇親会での名刺交換が少なく感じたことです。

【総評】

感想としては、「オーナーさん」というものは死滅していつかのような気がしますが、「ユーザさん」は存在しますが、

ITといわれるものが、仰々しく捉えられていた時代から、今に溶け込んでしまった

二つ目は、どの業界もそうですが、業界そ

のもの栄枯盛衰があるのかと思います。かつての華やかな産業が没落した事例は多数あるのかと思います。そのような意味で異業種のプレゼンなども、面白いかもしれません。